

(令和2年12月21日)

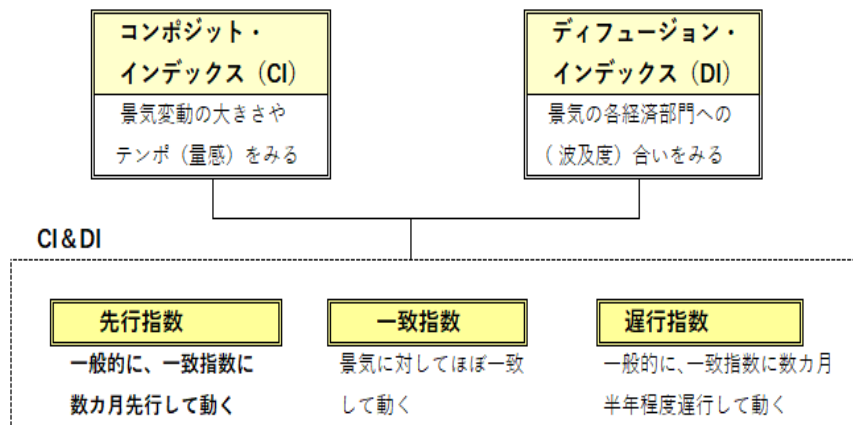
< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >

(景気動向指数・その1ーはじめに)

経済活動は、今年初から新型コロナウイルス感染拡大を受けて大きく落ち込みました。現在も人の接触や移動に制約を受ける中、経済活動、特に企業業績の回復度合いが気になるところです。政府から発表される景気動向指数、とりわけマーケットに携わるものとしては、一致指数に先行すると言われている先行指数のCI (コンポジット・インデックス)、DI (ディフュージョン・インデックス)、特にCIの動きはトレースしておきたいところです。

今回は、内閣府ホームページの「景気動向指数の利用の手引き」を基に、景気動向指数について要約してみました。

(景気動向指数)



(先行11系列)

- ・最終需要財在庫率指数 (逆サイクル)
- ・鉱工業用生産財在庫率指数 (逆サイクル)
- ・新規求人数 (除学卒)
- ・実質機械受注 (製造業)
- ・新設住宅着工床面積
- ・消費者態度指数
- ・日経商品指数 (42種総合)
- ・マネーストック (M2) (前年同月比)
- ・東証株価指数
- ・投資環境指数 (製造業)
- ・中小企業売上げ見通しDI

(一致10系列)

- ・生産指数 (鉱工業)
- ・鉱工業用生産財出荷指数
- ・耐久消費財出荷指数
- ・所定外労働時間指数 (調査産業計)
- ・投資財出荷指数 (除輸送機械)
- ・商業販売額 (小売業・前年同月比)
- ・商業販売額 (卸売業・前年同月比)
- ・営業利益 (全産業)
- ・有効求人倍率 (除学卒)
- ・輸出数量指数

(遅行 9系列)

- ・第3次産業活動指数 (対事業所サービス業)
- ・常用雇用指数 (調査産業計・前年同月比)
- ・実質法人企業設備投資 (全産業)
- ・法人税収入
- ・完全失業率 (逆サイクル)
- ・きまって支給する給与 (製造業・名目)
- ・消費者物価指数 (生鮮食品除く総合・前年同月比)
- ・最終需要財在庫指数

(採用系列は2020年7月改定)

(内閣府ホームページ・景気動向指数の利用の手引きを基に作成)